

令和元年
11月

2019年
みやま
第258号

病院理念
『患者さまの不安をとること』
当院の基本方針
「地域に根ざした安心できる医療」
「精神科医療の充実」
「老人医療」医療と福祉の結合

医療法人社団 光生会 平川病院

病院目標『時代が求める価値ある病院づくり』～ネットでつなごう医療の和～

[ホームページ] <http://www.hirakawa.or.jp/> [e-mail] hhsp1966@violin.ocn.ne.jp

第24回 平川病院文化祭開催！



令和元年度 平川病院「文化祭」の様子（令和元年10月18日・19日）

10月18日・19日に24回目となる文化祭が開催され、今年も大盛況に終えることが出来ました。1日目はディケアのコーラスとお馴染みの吉野みずほさんのライブショーが行われました。コーラスは名曲「晴れたらいいね」「時代」を、吉野みずほさんのステージでは平成を振り返る馴染みのメロディーを、それぞれリズムに乗って体を動かしたり手拍子をしたり、そして応援団扇「み」「す」「ほ」を振ってと、ノリノリで楽しみました。二日目は雨の為に室内開催となりましたが、バザー、作業所販売、模擬店、作品展示、体験コーナーなど楽しい催しが目白押しです！バザー会場では掘り出し物を探す為に真剣に物色する様子や、戦略を立てた値引き交渉が繰り広げられ例年にも増して白熱していました。模擬店はディケアの皆さんがメインで担当し、ウェイターとして手際よく動いています。お昼にはコーラス発表もあり、楽しい雰囲気の中で食事は本当に美味しいかったと思います。ゲームコーナーは今年もアルコールディケアの皆さんのが担当し、楽しいゲームを患者様や地域の子供たちに提供していました。また、1年の集大成である作品展示には多くの方に見て頂き、作業療法での日々の患者様の頑張りが伝わったかと思います。体験コーナーでも皿の絵付け体験に多くの方に参加して頂きました。完成を楽しみにしていてください。そして1日を通してパントマイムの方が盛り上げてくださったり、今年はスタンプラリーが催され、用紙片手に謎を解きながら回ったりと、盛り沢山な文化祭となりました。いつも以上に明るい表情の患者様の様子に私たち職員もとても嬉しかったです。今年も文化祭を無事に成功させることができたのはご助力頂いた皆様のおかげです。本当にありがとうございました。

作業療法科 主任 平本 美佳

【表紙】院長挨拶【P2・3】依存症あれこれ（危険ドラッグ）【P3】天皇陛下、即位のパレード
【P4】病棟たより（南3病棟）【P5】こころの扉【P6】地域生活支援室より【P7】入院治療による精神機能の改善【P8】歯科から

依存症あれこれ：まずは危険ドラッグについて

今回、アディクション（嗜癖）の原稿を頼まれて何を書こうかと思いましたが、いろいろなことが頭に浮かびました。最近、依存の分野はホットです。「依存症」の診断が、アメリカの学会で「使用障害」に変更になったり、アルコール依存症の治療で「断酒」だけではなくて「飲酒量低減（減酒）」が取り入れられるようになったり、パチンコやインターネット・ゲームなどの行動の問題が正式な病名として認められるようになったりしました。この背景には、社会のニーズがあることは確かです。ただ、診断基準や治療法が改訂されたときには、一時的な混乱や誤解が起きるのはしかたないことだと思います。

この原稿では、依存のトピックをシリーズでご紹介できればと思います。

1. 危険ドラッグについて

みなさん、危険ドラッグのことを覚えているでしょうか。2011年から2014年にかけて日本で大流行したドラッグです。ただ、この流行は日本では3回目です。いずれの流行も幻覚薬で、法の規制を受けない新しい化合物として販売されたことから“脱法ドラッグ”と呼ばれています。最初の流行は1998年から2002年でマジック・マッシュルームでした。乾燥させたキノコで、表向きは鑑賞用植物として販売され、摂取すると幻覚体験が生じました2回目の流行は2003年から2008年のデザイナー・ドラッグでした。なぜ、デザイナー・ドラッグというかというと、デザイナーズ・マンションのように意図的にドラッグの化学構造を変えて作られたものだからです。ドパミン系の刺激を弱めて、セロトニン系の刺激を強めることで、興奮作用を弱くして、トリップできる（幻覚体験）ようにしたもののです。この結果、クラブやディスコで楽しんだり、セックスのときに用いられました。有名なものはエクスタシーです。3回

目の流行が危険ドラッグです。天然の大麻成分が基本形でしたが、どんどん種類が増え、成分も強烈になり、科学的に抽出された大麻成分（天然の大麻よりも5倍くらい強力）だけではなくて、エクスタシー や覚醒剤もませられるようになり、われわれが体験した依存性

日本における脱法ドラッグ

年	1998～2002	2003～2008	2011～2014
種類	マジック・マッシュルーム	デザイナー・ドラッグ	脱法ハーブ（危険ドラッグ）
販売名	鑑賞用植物	ケミカル・ドラッグ スマート・ドラッグ	ハーブ、お香 スパイス、バス・ソルト
成分	サイロシピン サイロン (キノコ成分)	エクスタシー(MDMA) トリプタミン系 フェネチルアミン系	合成カンナビノイド カチノン系(覚醒剤) 未知の化学物質
作用	知覚異常 幻覚 しびれ 震え、めまい	幻覚 妄想	吐気、呼吸困難 けいれん 幻覚 意識障害



マジック・マッシュルーム



デザイナー・ドラッグ



危険 ドラッグ (脱法ハーブ)

物質の中でも最も強力で危険な物質となりました。この結果、摂取すると幻覚、妄想だけではなくて意識障害が生じて交通事故が多発したことは記憶に新しいと思います。私の患者さんで、覚醒剤を警察に捕まらないように適度に（比較的少量、土日を中心に）使用していた方が、危険ドラッグを使用してわけがわからなくなり（意識障害）、緊急入院となつて「あれは恐ろしいドラッグだ」と言っていたのが印象的でした。

シリーズの1回目で危険ドラッグを取り上げたのは、次に流行するのも危険ドラッグと同様の幻覚薬と予想されるからです。しかも、成分抽出、化学合成が進歩して危険度は増しています。われわれも、次の流行にそなえると同時に予防する啓蒙活動が大切です。」

宮田 久嗣（医局、東京慈恵会医科大学 精神医学講座）

天皇陛下、即位のパレード

天皇陛下の即位パレードが11月10日に行われました。当初は即位礼正殿の儀と同じ10月22日の15時30分からを予定されていましたが、9月に襲来した台風15号および10月中旬に襲来した台風19号によって広範囲に激しい被害がもたらされたため、被災者に配慮し11月10日に延期された経緯があります。一方で、即位礼正殿の儀が行われた10月22日は朝から雨で、天皇陛下がお姿を現されたときに、空が晴れて日が差したように、11月10日は雲1つない快晴で素晴らしい天候のなか、オープンカーに乗られた天皇陛下、皇后陛下のお姿を見ることができました。私はテレビで観ていましたが、日本人としての幸福感を感じました。令和の時代が、平和で穏やかであることを象徴するような即位の礼でした。厳しい世の中であることは変わりませんが、平川病院も、ご利用者も職員も皆が幸せになれるよう、また幸せが続くよう私自身が努力することを天皇陛下に誓いました



院長 平川 淳一

南3合併症治療病棟の紹介

私が所属する南3階合併症治療病棟には、精神疾患と共に身体疾患の治療も必要とされる患者様が入院されています。その中でも半数以上の患者様が身体リハビリを目的として入院されています。リハビリを必要とする主な疾患としては、脳卒中の後遺症や、高齢者の骨折、呼吸器疾患、また、自殺未遂の多発外傷・後遺症の患者様が挙げられます。そういう患者様を、リハビリ科の職員と連携して患者様のケアに当たっています。

近年、一般病院に精神疾患の身体合併症の方が救急搬送されるケースが増加し、一般科医療機関と精神科医療機関の連携が必須となっています。そこで、当院は東京都の委託を受け、地域精神科身体合併症救急連携事業を、南多摩、西多摩医療圏域の基幹病院となって展開しています。これは、精神疾患患者様が地域で必要な時に適切な医療が受けられる仕組みを構築することを目的とした事業です。精神科病院であっても、身体疾患の診れる病院が必要とされており、当院でも病院全体でそれにこたえられる様に尽力しています。

実際の入院生活の場面では、精神疾患を患いながら、身体疾患の治療を行うことは患者様自身にとってはもちろんのこと、ケアする医療者にとっても困難なことがあります。そのため病棟内・外

で必要な知識を修得すべく、リハビリ看護を含めた身体ケアや、精神科ケアに関しても勉強会を開催したり、研修に参加し、病棟全体で知識の向上に努め、患者様によりよいケアが提供できる様に日々努力しています。

10月の台風19号では、大変な思いをされた方も多いと思います。当病棟では当日避難場所に避難できない方の入院がありました。ご家族からも感謝の言葉をいただき、もちろん災害拠点病院などと比較すれば、本当に小さなことですが、近隣の方の役に立てたことを嬉しく思います。そういうことも通じて、近隣の方々にももっと平川病院を知っていただき、地域に誇れる平川病院の一角として、病棟の皆と力を合わせより良い病棟作りに尽力してまいります。



南3病棟スタッフ（筆者：右から2番目）

南3病棟 師長 木下 恵美

こころの扉 その201 備えあれば憂いなし ~自然災害に備えよう~

早いもので2019年もあと2か月ほどで終わりとなります。今年を振り返ってみると、私個人の印象としては豪雨災害のニュースをよく見たように思います。先月の台風19号に至っては、「台風でここまで甚大な被害が出るものなのか」と災害への恐怖を改めて実感しました。台風19号による被害に遭われた方々には心よりお見舞い申し上げます。

さて、私自身普段から災害対策をしておこうと思いながらも先延ばしにしており、先月の台風では慌てて電気屋さんやスーパーに駆け込みました。災害大国である日本に住む以上、自然災害への備えは大切と言えますね。今回は、災害に遭遇した時に人はどのような行動をとりがちなのかという心理傾向を2つご紹介します。

一般的に人が緊急事態に遭遇した場合慌てふためいたりパニックになるのではないかと想像すると思います。しかし実際にはパニックになるパターンは少ないのです。例えば街中や職場、駅構内で突然非常ベルが鳴りだしても、すぐに逃げ出す人はあまり居ませんよね。「誤作動じゃないか」とか「避難訓練かもしれない

い」とか「見る限り何事も無さそうだから大丈夫だろう」といった判断をして、何事もなかったかのように歩き続けたりします。これが【正常性バイアス】です。周囲に起きている異常な出来事を正常範囲の出来事として過小評価することでひとまず安心感を得るという自己防衛機能としての効果がある一方、本当に危機が迫っているときには逃げ遅れてしまう可能性が高くなります。

2つ目は【同調性バイアス】です。これは他者の行動を参照してそれに同調してしまうことです。緊急事態に遭遇した場合には、周囲の人々が逃げる行動をとればそれに同調して一緒に逃げますし、逆に周囲の人が様子をうかがってじっとしていると、それに同調してその場に留まってしまいます。

緊急事態を過小評価する【正常性バイアス】に、他者の行動に自分の行動を合わせてしまう【同調性バイアス】が加わると、より危機回避困難な状況になる可能性が高くなります。防災グッズを用意しておくだけでなく、あらかじめこの心理傾向を認識しておくだけでも、いざという時に助けになると思います。

心理療法科 公認心理師 山崎 恵莉菜



地域生活支援科における就労支援を考える

地域生活支援室より

一自立支援協議会就労支援研修会での発表を通じて—

9月27日、八王子市障害者地域自立支援協議会就労支援部会が主催する2019年度第2回「就労支援者研修会」で地域生活支援科の石橋とディケアの井出が依頼を受け、平川病院における就労支援の報告をして参りました。

精神障害者の障害者雇用求人や求職者、そして就職者の数は全国的に増加を続けています。就労は地域で生活している精神科の患者さまにとって、以前に比べて現実的な選択肢の一つとなっています。今回の研修会も、参加者は就労移行支援事業所を中心に、就業生活支援センター・就労継続支援事業所・ハローワーク・企業(特例子会社)・医療機関と多岐に渡っていました。参加機関の職員に顔見知りの方も多く、平川病院の就労支援も含めて医療一福祉一企業の連携・協働が盛んになってきていることを実感する会場の雰囲気でした。

研修会で石橋からは、ディケアや作業療法などの治療形態を拒み外来診察と



PSWのケースワークを中心の関わりとする患者さまの就労支援について発表させていただきました。井出は、ディケアで実施している就労準備プログラム、発達障害専門プログラムなどグループの力動を利用した就労支援について紹介致しました。また平川病院の就労支援の動向として、ハローワークの医療連携モデルの一施設となっていることや院内における障害者雇用の取り組みを院長はじめ看護部など病院全体で行っていることについても話題にさせていただきました。就労支援に対する地域生活支援科の考え方として、それが患者さまとの関係づくりや治療継続への動機づけ、そして病気の理解や障害受容につながるのであれば積極的に介入していきたいということもお伝えし、参加されている関係機関の方々に関心を向けていただきました。

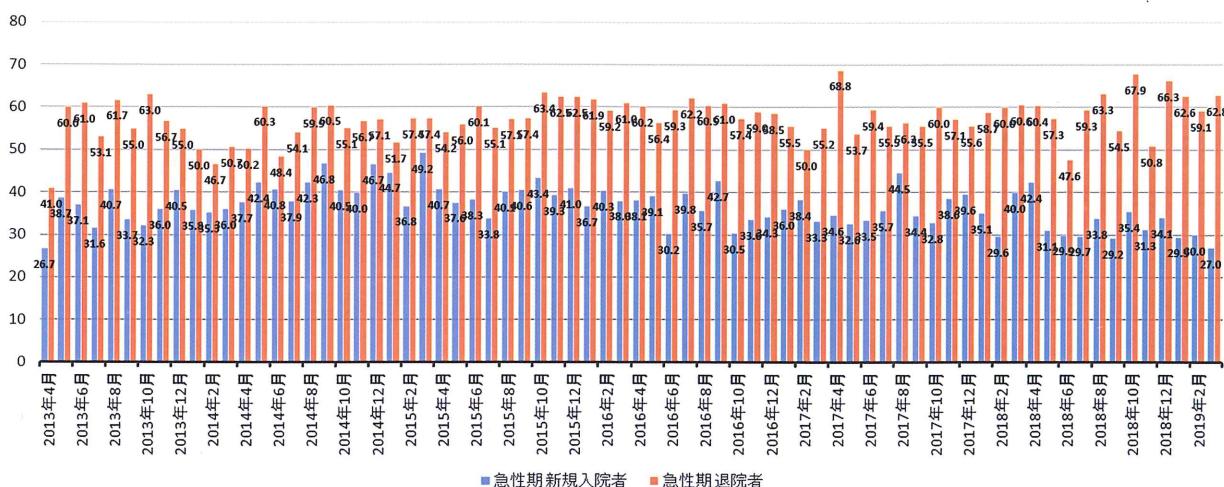
最後に医療一福祉一企業の3者間で、いかに各施設・機関の情報を共有し、また役割を分担していくかということを課題として共有しました。今後さまざまな領域で就労支援は活発になってくることが予測されます。連携を大切にしながらも、平川病院独自に提供できる就労支援を地域生活支援科が中心となって実践していきたいと考えています。

地域生活支援科 ディケア 井出 学

入院治療による精神機能の改善

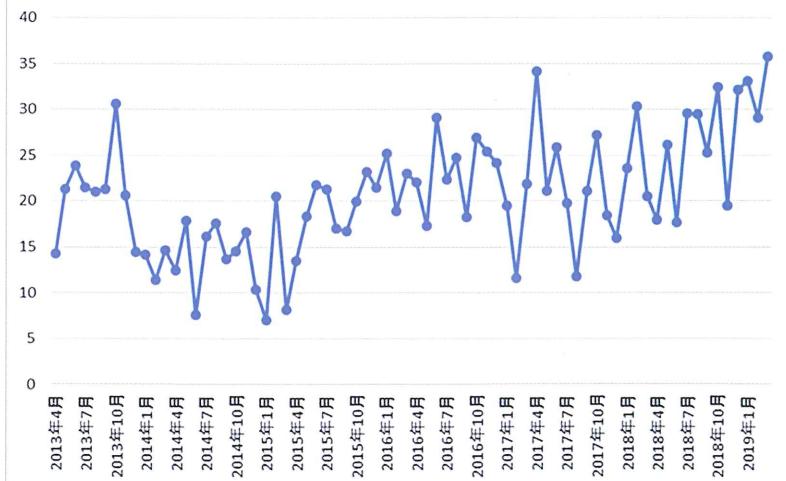
当院では、精神科病棟にご入院されるすべての患者様に対して、入退院時にGAFという指標をつけています。GAFとは、機能の全体的評定です。世界各国、日本全体の様々な統計にも使われる指標で、100に近いほど精神的に健康、0に近いほど病気の重い状態として数字で表す指標です。今回は、急性期病棟に2013年4月から2019年3月までのそれぞれの月に入院された患者様、退院された患者様のGAFの平均を図に表してみました（図1）。

図1. 急性期病棟 新規入退院患者 平均GAF（2013年4月～2019年3月）



どの程度良くなったかが図1では理解しづらいので、ひと月のうちに退院された患者様のGAFから、入院された患者様のGAFを引いて図に表します。図1の横に書いてある“改善幅”の推移をグラフにしたもののが図2です。

図2. 急性期病棟 月間治療成績の推移
(2013年4月～2019年3月)
(当月の退院患者GAF－当月の新規入院患者GAF)



は、誰か特定のスタッフの功績というわけではないものと考えられます。

精神科病院への入院に際し、「果たして本当によくなるのだろうか？」そんな風に心配される患者様、ご家族様も多いことでしょう。しかし、平川病院の治療成績が上昇していることは、データ上にもしっかりと表れているのです。

いかがですか？ 上がり下がりを繰り返しつつ、少しずつグラフが右上がりになっていることがわかります。これはつまり、退院した患者様のGAFと入院した患者様のGAFの差が大きくなっていることを表しています。つまり、入院された患者様の病状の改善の幅が大きくなっているということになります。

6年間には、医師や看護師、様々なスタッフが入れ替わりながら患者様に関わっていますので、改善幅が大きくなっていること

歯科から

| 学会発表しました

平川病院にて入院患者さんの摂食嚥下機能（食べて飲み込む力）の検査および評価を行なっている歯科医師の平井です。私は平川病院で摂食嚥下の診療を始めて1年となりました。前任の先生から合計で2年継続している調査の結果について、10月に行われました東京精神科病院協会学会にて発表致しましたのでご報告いたします。

全身疾患により入院されている患者さんは全身の機能だけでなく摂食嚥下機能も低下し、誤嚥（食べ物等が気管に入ること）による肺炎を起こしてしまうことがあります。それは、精神疾患を持つ患者さんにも当てはまり、いかに誤嚥性肺炎の発症を減らすかという点は非常に重要です。脳梗塞といった病気と誤嚥との関連性についてはたくさんの研究がなされていますが、精神疾患における摂食嚥下機能と多職種による治療の効果については未だ研究が少ないため今回調査を行いました。

その結果、精神疾患を持つ患者さんにおいても摂食嚥下機能の評価および多職種での治療を行うことで、口から食べる力を維持・回復することができるようになりました。

平川病院では多職種で連携し、入院早期から摂食嚥下チームが介入しております。その介入により、患者さんの症状やその時々の状態に合わせて無理なく食事や訓練メニューを変えることが可能となり、早期に口から食べる力を取り戻すことができたのではないかと考えられます。また、平川病院には歯科室があり常勤の歯科医師による入院患者さんの歯科治療が可能です。それに併せて歯科衛生士による専門的口腔ケアも行われ、患者さんが美味しく楽しく食事を食べることが出来るよう全力でサポートしています。



歯科 摂食嚥下担当 歯科医師 平井 啓之

編集後記

ラグビーW杯は、私を含め多くのにわかファンを生み大いに盛り上りました。ラグビーは、ティア1と呼ばれる10チームとティア2～3のその他チームとの実力差があり、ベスト8にティア1以外のチームが進出したのは、今回の日本が3国目となります。日本のベスト8は確かに歴史的快挙でした。その後を受けた野球プレミアム21も何となく盛り上がり韓国に勝っての優勝は良かったと「いやあ、スポーツって本当にいいもんですね～」

医療法人社団光生会 平川病院

東京都八王子市美山町1076
電話 042-651-3131
FAX 042-651-3133

編集 平川病院 広報委員会

ご意見ご感想はちらへお願いします
kouhou@hhsp1966.jp

**HIRAKAWA
HOSPITAL**

